

町の取り組み

ヤングケアラー支援は「気づく→つなぐ→支援する→見守る」の4ステップが基本です。そのため、さまざまな立場の方に「あれ？」と思い気づいてもらうことが支援のスタートになります。

町では、このことを踏まえ、ヤングケアラーについてたくさんの人に知ってもらうための啓発活動に力を入れています。

また、南会津町社会福祉協議会の協力を受けて、子育て世帯の家事負担を軽減するヘルパー支援も始めています。



おねがい

子どもや若者が家族をケアすることの全てが問題ではありません。ヤングケアラーの大きな問題は、本来守られるべき子どもや若者自身の権利が守られず、誰にも相談できずに抱え込んでいる可能性がある点です。もし、みなさんの周囲に「ヤングケアラーかも？」という子どもや若者がいたら、相談窓口にご連絡ください。

また、自分がヤングケアラーかもしれないと思ったら、一人で抱え込まず、自分の気持ちを信頼できる相手に話してほしいと思います。周りの人に自分のことや家族のことを話づらいとき、相談窓口の職員は、いつでも連絡をお待ちしています。

ヤングケアラーの問題は外からは非常に見えにくいと言われています。だからこそ、周りが『**気づき、声をかけ、手を差し伸べる**』ことがとても大切です。

身近なところにいるお子さんに一度目を向けていただくとありがたいです。

ふくしま親子・ヤングケアラーのための相談LINE

福島県では、LINEによる相談窓口「ふくしま親子・ヤングケアラーのための相談」を開設しています。匿名かつ無料で、LINEだけのやりとりだけで相談できます。

悩んでいるとき、困っているとき、誰かに聞いてほしいときなど、まずはご相談ください。



相談はコチラ



ホームページはコチラ



【ヤングケアラーの相談窓口】

こども家庭センター「えがお ぷらす」
(健康福祉課内)
電話 0241-62-6170
メール egao@minamiaizu.org

▶必要に応じて、健康福祉課介護保険係や社会福祉係と連携して対応します。お気軽にご相談ください。

▶町ホームページにヤングケアラー特集を掲載しています。ぜひご利用ください。



メールでの相談はコチラ



Instagramはコチラ



ホームページはコチラ



生活実態に関するアンケート調査 (ヤングケアラー調査) 結果報告について

今年度、町では町立中学校に通う生徒253名にご協力いただき、生活実態に関するアンケート調査(ヤングケアラー調査)を実施しました。ご協力いただいた調査結果から見てきたことをご報告します。

ヤングケアラーって何？

みなさんは「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか？

「ヤングケアラー」とは、一般的に大人が担うと想定される家事や家族の世話などを、日常的に行っている子どもや若者のことをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の離せない家族の見守り・声かけ・気づかいなどの情緒的ケアをしている。



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



障がいや病気のある家族に代わり、家計を支えるために働いている。



精神疾患やアルコール・薬物・ギャンブルなどの問題を抱える家族の情緒的ケアや周囲との調整などを行っている。



がん・難病のほか慢性的な病気の家族の看病をしている。



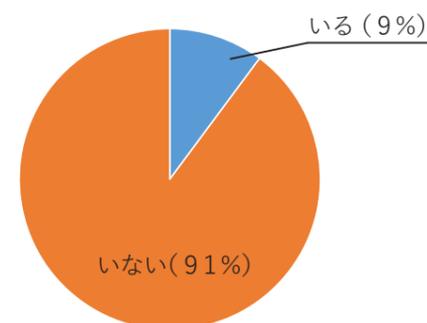
障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



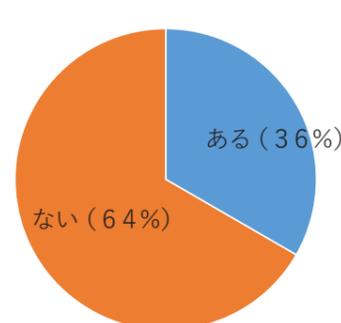
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

調査結果と分かったこと

家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか



家族のことやお世話の悩みを誰かに話したことはありますか



- ▶今回アンケート調査で、全体の9%の生徒が「家族の中にお世話をしている人がいる」と回答。
- ▶お世話は「介護が必要な家庭」「年の離れたきょうだいがいる家庭」に二分化されている。
- ▶小学校高学年からケアを開始していることが多い。
- ▶お世話をしていると回答した生徒の64%が、家族のことやお世話の悩みを誰にも話したことがない。